

デーリー東北

2026年(令和8年)4月15日(水曜日) (18)

八工大100円学食

物価高週2回、学生を支援

物価高から学生の食生活を守れ。八戸工業大は14日、学食メニューをわずかに100円で提供する新たな支援策を始めた。大学OBの働きかけで建設コンサルタント業「日本振興」（本店・大阪府）が事業費を負担。「100円学食」として週2回、ラーメンや唐揚げ定食など一部メニューを破格の値段で販売する。生活費増や仕送り減に苦しむ学生を企業と一体となってサポートする。

（向屋敷明）

OBの勤務先、事業費負担

全国大学生生活協同組合連 した調査によると、学生の食生活の支出の2割を占め、生活を圧迫している。

物価高は学生食堂を運営する大学側にも重くのしかかる。材料費から光熱費まで全ての費用が高騰しているものの、学生を支える施設だけに値上げには慎重に取り組んできた。

「ここ2、3年の間に2度の価格見直しで10、50円程度の値上げをしたが、物価高騰分をまかなうには足りず、昨秋ごろには事業者が交代する事態となった。

手を差し伸べたのは同大OBで日本振興東北支店業務課係長の渡邊浩平さん（37）。先輩たちのために何かできないかと大学側に打診した。同社による大学の学食支援は初めてで、人材確保の一環として宣伝広告費から事業費を捻出した。



100円学食が始まり、にぎわう食堂。14日、八戸工業大

100円学食は毎週火、

木曜の週2回で、4月は日替わりランチ、ラーメンなど9種類を1日計2000食提供する。5月以降は予算や利用状況に応じて提供メニューや食数を調整する予定だ。

初日の14日は開店前から多くの学生が列をなし、200食は販売開始から1時間ほどで完売した。

八戸市内で1人暮らしをする、工学部システム情報コース2年の畑村真哉さん（19）は「久慈市出身は最近スーパーで買い物をしている時に特に物価高を感じる。部活動の試合の時の交通費などにもお金がかかるので、100円で食べられるのはありがたい」と喜んだ。

活気ある食堂の様子に渡邊さんは「やったかいがある」と笑顔。同社による支援は、学生への認知度向上を図る意味合いもあり「まずは1年間継続していく。学生の食の支援につながれば」と強調した。

同大の吉田忠一総務部長は「勉強も部活動も食べることが基本。生活が厳しい中でも食をおろそかにしてほしくないという思いで実施した。今後いろいろな形で学生を支援していきたい」と話した。

※この記事・写真等は、デーリー東北新聞社の承諾を得て転載しています。